

放課後子ども教室支援事業

自治体名

岩手県九戸村

学校数

小学校 5校 中学校1校

震災後の地域の状況・仮設住宅数

震災による被害はなかったが、ここ数年、大雪による停電等による被害があり、災害に対する備えは急務の課題である。

<取組名>

～放課後における子どもたちの居場所づくり～

取組概要

実施形態 (該当に○)	自治体単独実施	団体等との連携実施	大学との連携実施	(連携している団体等・大学の名称)
	○			
実施主体・ 場所等	コーディネーター数	ボランティア延べ人数	年間実施日数(回数)	活動場所
			180日	戸田小・山根小・長興寺小・江刺家小

活動内容

※該当する内容に○

学校支援	学習支援	部活動指導	美化・環境整備	登下校指導	学校行事・その他
					()
学校と地域の 協働学習	復興学習	防災教育	伝統文化・芸能	職業体験・キャリア教育	イベント・行事・その他
					()
放課後等支援	学習支援	体験・交流活動	遊び・スポーツ	児童クラブとの連携	その他
	○	○	○	○	()
家庭教育・ 保護者支援	家庭教育講座	親子参加行事	サロン・相談対応	家庭訪問相談	その他
					()
地域課題に応じた 学習・交流	高齢者支援・世代間交流	心のケア・健康管理	生活再建・地域づくり	地域人材育成	その他
					()

本村では、住民生活課管轄で、平成17年度に伊保内小学校区に学童クラブが設置された。しかし、残りの4小学校区には学童クラブがなく、平成19年度に戸田小学校区、平成20年度に山根小学校区・長興寺小学校区、江刺家小学校区にそれぞれ放課後子ども教室を設置し、村内全ての小学校区に、放課後の子どもたちの安心・安全な居場所を設置した。

これは、教育委員会と住民生活課が担当課を超えて連携を図り、地域に偏りのない住民サービスを提供できるようにしたためである。

現在は、学童クラブ・放課後子ども教室の両事業を、これまで以上に連携した取り組みとなるよう、「放課後子どもプラン運営委員会」を設置し、平成27年度から本格的にスタートする「子ども・子育て支援新制度」にも対応できる環境整備を進めている。



取組の変遷

準備段階

◇被災による課題

震災による被害はなかったが、ここ数年、大雪による停電等による被害があり、災害に対する備えは急務の課題である。また、放課後の時間などに有事があった場合のことを考慮し、放課後の安心・安全な居場所の永続的な確保も必要となっている。

◇住民等からの要望・必要な取組

子どもたちの「安心・完全」を確保する観点から、現在のように全ての小学校区に放課後の居場所を設置し続けて欲しい。

体制づくり・取組の実施

◇協力を呼びかけた団体・関係者、役割分担

- ・村内各小学校…開催場所の設置
- ・村内各教育振興運動実践区…村内への事業の周知
- ・放課後子ども教室安全管理員…放課後子ども教室の実施
- ・九戸村教育委員会事務局…放課後子ども教室の運営

◇取組の充実や課題解決のための工夫

安全管理員が急な都合で教室に行けなくなった場合でも予定通りに開催できるよう、各放課後子ども教室の安全管理員と教育委員会担当者とが連絡を取り合うようにしている。

また、安全管理員を対象とした研修会を実施し、各教室の情報交換とスキルアップを図っている。

成果・課題や今後の展望

◇これまでの取組による成果

村内の全小学校区に放課後の居場所を設置できたことにより、放課後の子どもたちの安心・安全を確保することができている。

◇復興に資する内容としての数値的達成の成果

＜参加延べ人数の比較＞ 平成 25 年度…12,666 人、平成 26 年度…14,502 人

＜全児童に対する登録率の推移＞ ※設置されている4小学校区のうち、登録制にしている3小学校区

平成 24 年度…74.5%、平成 25 年度…80.2%、平成 26 年度…92.6%

多くの児童が放課後子ども教室を利用しており、日常生活だけでなく有事の際の安全な居場所の確保という点でも家庭にとって必要な場所となっている。

◇課題や今後の展望

子ども教室の開催が学校の授業日とほぼ同数の年間180日であることと、活動の内容の大半が保育的要素になっていることなどから、日々の安全管理に追われプログラム開発の時間を確保できない状態である。そのため、児童に多様な体験プログラムを提供することができていない。今後、地域にボランティアの協力を呼びかけて体験活動に参加してもらったり、安全管理員にプログラム開発の研修機会を設定したりすることで、子どもたちにより多くの体験的な活動の場を提供していく。

また、村内の学童クラブとの連携について、環境整備を進めていく。